

鳥取のアートをもっと身近に! もっと楽しく!



アルテ

鳥取県文化振興財団 情報誌 vol.318

2022.SPRING

特集

演劇が若者にも もたらすもの

「U-18シアタープロジェクト Act2」スペシャル対談

鳥取の未来のために

次世代育成事業トライアート レクチャー・シリーズ

FOCUS ON

倉吉ジュニアオーケストラ



「U-18シアタープロジェクト Act2」スペシャル対談 演劇が若者にもたらすもの

不安定さの中に独特の感性が光る戯曲、悩みながらも力強く演じるキャスト。高いクオリティで大きな反響を呼んだ、18歳以下による演劇企画が再始動している。今年8月の上演を前に、その全てを知る演出家・宮田慶子と劇作家・大和屋かほるが意義と魅力を語り尽くす。



第1弾U-18シアタープロジェクトの公演作品「動かない電車に乗って」の一場面。(2019年3月、米子市公会堂)

Theatrical Dialogue

U-18シアタープロジェクトとは

鳥取県内18歳以下の若者が約1年かけて書き上げた戯曲を、同じく県内18歳以下のキャストが演じるという、全国でも類を見ない当財団オリジナルの演劇企画。しかも、現在活躍中のプロフェッショナルが若者たちをサポートする。2017〜2019年にかけて取り組んだ第1弾ではみずみずしい感性あふれる2つの戯曲が完成。フレッシュなキャストが熱く演じ、多くの反響を呼んだ。

若者だけで一から創る!? 斬新かつ挑戦的な企画

宮田 最初に「U-18シアタープロジェクト(以下、U-18)」のお話を伺ったとき、本当に思い切った、勇気ある企画だなと思いました。さまざまなことに揺れているであろう18歳という年齢を境にして、全てそこから下の年代の若者たちで、演劇とどう向き合うかを試してみるといのは非常に刺激的。私も、その世代が一体何を考えているのか、演劇にどんな夢を抱いているのか興味があり

参加させていただいた次第です。大和屋さんは?

大和屋 僕が市民参加の講座で戯曲創作を学んだとき、自分たちが書いた戯曲を自分たちで上演するのがとても面白かったんです。表現が他の誰かに共有される喜びを若者たちも味わえる場所になるなら、とても意義深い仕事だなと。

宮田 彼らが本当に挑戦してくるのか心配でしたけど、第1弾の戯曲創作講座では5人も応えてくれて。そこから戯曲が出来上がるまでの約1年間は、大和屋先生がびっ

ちり寄り添ってくださいましたね。

大和屋 「戯曲とは何か」という話から始め、創作の基礎を学んでもらい、それから「一番興味があるのは?」「一番腹が立つことは?」と投げかけ、「あなたが抱えているその問題をお話として立ち上げるには、さあどんなことができる?」と、彼らの中にある種を引っ張り出すところまで全部! そうやって苦労して戯曲を書き上げた子たちは、学校生活や私生活も良いほうに変化していきました。

戯曲を自己の精神世界から送り出す怖さと喜び

大和屋 今回の戯曲創作にはまた全然タイプの違う、個性的な3人が集まってきました。既に自分の世界を持っています。「何を書きたいのか」という対話をずっと続けてきたのですが、表現したいと名乗りを上げてくるだけあって、良くも悪くも頑固(笑)。「それを書くなら、こういうやり方がいいよ」と促しても、そのとおり直してくる子はあまりいない。その擦り合わせに

は苦労しました。

宮田 その子の特徴なのか、世代の違いなのか。我々としてはどうしても、育った時代の違いを大いに感じる仕事になりますね。書き上げた戯曲も大事だけど、さらに先がある。自分の世界だけで終わらないで、戯曲として発表し、俳優が演じるということろまで広がるんだということを、怖いだろうけど分かかってほしいですね。

大和屋 そういう意味では2021年7月に開催されたリーディング公演は、彼らに

とつてある種の責任を感じるいきつけになったと思います。演劇はいろんな人を巻き込んで、単なる自己表現ではすまないんだと。

宮田 責任と同時に、「人と一緒にやるって楽しいですよ」ということなんだけどもね。現代はバーチャルな世界での結び付きが圧倒的だけれど、人と人とのアナログな関係だつて可能性がまだまだあるんだということを知ってもらうのも大きい。U-18はいろんな経験ができる贅沢な機会ですね。



戯曲創作講座
大和屋かほるさん指導の下、演劇や戯曲の基本を学びつつ書きたいテーマを掘り下げた3人の受講生たち。試行錯誤を繰り返し、少しずつステップアップしていった。



劇作家

YAMATOYA KAORU

大和屋 かほる

日本劇作家協会 会員
鳥取県立高等学校 教諭

米子市生まれ。岩崎正裕・松田正隆・斎藤謙の各氏に劇作を学ぶ。鳥取県総合芸術文化祭で『沙也可』『不屈 千鳥忠臣蔵』『八賢伝』等の作・演出を手がけた。高校演劇では外国文学の翻案による創作脚本で、06年『もうひとつの(罪と罰)』、10年『ベスト』により春季全国大会に出場。U-18シアタープロジェクトには宮田慶子氏と共に第1弾から関わり戯曲創作に挑む若者をサポート、完成まで寄り添う。

【戯曲と脚本】

演劇作品等において登場人物が話す言葉【セリフ】と、登場人物の動きや場面の状況などを説明した【ト書き】を中心に書かれた文学作品を「戯曲」といいます。その「戯曲」を元に、ト書きなどをより細かく説明し、演劇上演を目的として書かれたものを「脚本」といいます。



演出家

MIYATA KEIKO

宮田 慶子

劇団青年座
新国立劇場演劇研修所 所長

東京都生まれ。1980年、劇団青年座に入団。劇作家、翻訳劇、近代古典、オペラ、ミュージカル、商業演劇と、多方面にわたる作品を演出。また、演劇教育や日本各地での演劇振興・交流に力を注ぐ。U-18シアタープロジェクトも第1弾から携わり、若者たちと本気で向き合いながら演出を手がけた。第29回紀伊國屋演劇賞個人賞、98年芸術選奨文部大臣新人賞、第43回毎日芸術賞千田是也賞など多数受賞。

第2弾の上演作品が決定！
新たな才能が花ひらく

大和屋 2021年6月に戯曲が完成して、7月のリーディング公演で1本に決まりました。

宮田 中学生が題材になっていて、つまらないことで揺れていたあの年代のことが生々しく出てくる。大人の観客は「子どもたちの中はこのこんなことになっていたのか」と知るいい機会になるし、自分の中学生時代を思い出して共感できるでしょう。キャストも演じるというより、友達とワイワイしていた楽しさとか、他人を妬んだりコンプレックスを感じたりしたことなど、いろんな感情を出してきてくれるはず。

大和屋 僕には絶対に書けないせりふがいっぱい並んでいきます。読んでとき鳥肌が立った。宮田 みんな毎回とんでもないのを書いてくるよね。その分、大和屋さんがものすごく苦労されているんですけど(笑)。この世代ならではのグチャグチャ感があって面白い。このお

話の登場人物は7人ですね。大和屋 登場人物ごとにその人の人生なり生活なりの背景を細かく作らないといけないし、関係性も増えるので、初心者が戯曲を書くときは大抵2人芝居から始まります。だから、初めての彼女が7人も書くなんてとんでもない暴挙。だから今回は、プロット(※)一つも書かないで、苦しんで。

宮田 大体途中で「もうできません！」ってなるんだよね。大和屋 でも、自分の書いたせりふを実際に人が声に出してくれると感動します。それがやみつきになる。宮田さんが待っている、キャストたちが待っているというのも励みになったはず。そしてこれからは上演台本にブラッシュアップ。まだまだ続きます。

宮田 決して強引に「こっちにしろ」とかではなく、大和屋先生が主体性をすごく大事にしてくださいから、私も「学生だから」なんて思わないで、作家と演出家という関係性でやっています。

※プロット：物語のあらすじ、構想。

U-18シアタープロジェクト Act2 公演実施までの道のり

- 2020年6月下旬 ● 「戯曲創作講座」開始
- 2021年6月 ● 「戯曲創作講座」終了
● 戯曲完成
- 7月 ● 「リーディング公演」開催



Act2リーディング公演の様子

● 上演作品決定

- 12月 ● キャストオーディション
- 2022年2月 ● 脚本完成
- 3月 ● 初稽古



第1弾の稽古の様子

- 4月 ● 舞台美術プラン完成
- 7月 ● 集中稽古開始
- 8月 ● 本番

真剣に向き合ってこそ、
本当の面白さが分かる

宮田 昨年12月にキャストオーディションを開催したところ、募集人数に対して3倍ぐらいの若者が集まってくれました。ワークショップ形式で行ったんですが、どこかで見たいような芝居をしている子もいて、自分自身を安売りしないでほしいと話しました。全体的には作家のイメージ

がギョツと込められている。それを感じ取り、想像するということも教えていきました。

大和屋 あのとときはいろんな提案をしてくださって、参加者たちの表現がみるみる変わっていききました。

宮田 たった2日間のワークショップでも彼らは気付いてくれましたね。18歳以下の若者だからこそ、演劇と間違った関わり方をしてほしくない。「つまらないうそをつく」と、演劇の本物の面白さが分からない

い」ということだけはきちんと伝えておきたい。それから、今回もプロの俳優さんが客演しますから、その行動や意識を盗んでほしいですね。

大和屋 立ち振る舞いから違います。誰より早く稽古場にきて、「大の大人がこんなに真剣に向き合うのか」というくらい。こういうスタンスが必要なんだというモデルを目の前で見せてくださる。プロの俳優の傍らで協働できるのは財産になるんじゃないでしょうか。

宮田 お客さまには、「U-18はここまでやりますよ」という姿を見てほしい。決して子どもっぽいやつをやっていないわけでもないし、脚本も下手な大人が書くより面白いものだから。そしてこの経験は、将来この地で彼らが活動していく一つのきっかけになります。第1弾の若者が地元で劇団を立ち上げたように、生活に近い場所で表現活動をするということが、特にアフターコロナでは絶対に必要だと私は思っていますし、皆さんに若者たちを応援していただきたいですね。

キャストオーディション

キャストオーディションには、小学生から高校生まで総勢14名が集まり、宮田慶子さんのアドバイスを受けながら自己表現力を磨いた。(2021年12月、鳥取市)



鳥取県文化振興財団プロデュース公演《演劇》

Act2
U-18シアタープロジェクト
THEATER PROJECT

「捨てきれないもの」

公演情報は裏表紙をチェック!

STORY 「捨てきれないもの」 作/北村真彩(U-18)

東京からわけあってその村に転校してきた中村結衣、中学3年生。村を強く彩る言い伝え、その影響は結衣のクラスメイトたちにも及んでいた。その中にはいとこでありながら結衣を毛嫌いする小椋直子もいた。結衣は通学路途中にあるお地蔵さま相手に、クラスメイトたちに対する不満を爆発させる。感情がヒートアップした結衣は、あろうことか……!それを謎の男に目撃される。最悪の1日ははじまりだった。閉鎖的な村にあやしげな儀式の曲が流れる。たーったたっ♪ たったったったったったっ♪ クラスメイトたちが踊る。その輪の中に結衣は入るのか?



人と人とのつながりを大切に
展開している、若者たちに向けた
財団の取り組みを紹介します。

「次世代育成事業トライアート」って？

鳥取県の未来を担う若手活動者や子どもたちに向けて公演と関連したワークショップ等を行い、その魅力を身近に体験し深める機会を提供します。会館を交流の場に文化芸術のすそ野を広げ、若者たちが豊かな心を育むことを目指しています。



「なるほど」クラシック」ストラヴィンスキーの肖像 ～バレエ・リュスとその時代～(2021年10月/とりぎん文化会館 リハーサル室)



「なるほど」クラシック」～目で楽しむピアノコンサート #2～(2022年1月/とりぎん文化会館 小ホール)



「なるほど」クラシック」チャイコフスキー 名曲に隠された<宿命>(2021年8月/とりぎん文化会館 リハーサル室)

触れる 芸術を子どもたちのもとへ届けます。

次世代育成事業トライアート レクチャー・シリーズ

音楽の楽しみ方を多面的に手ほどき

クラシック音楽の公演は、あまり関心のない方には「楽しみ方が分からない」と思われがちです。一度そう思われると、再び振り向かせるのは至難の業。しかし当財団は、そのような方々にも劇場へ足を運んでもらいたいと願っています。

クラシック音楽の公演は、もらえるよう、クラシック音楽にまつわる人物や作品、演奏楽器などの歴史や背景を紐解き、生演奏を披露したり、時には映像も駆使したりして、専門家が分かりやすく解説します。

継続的に参加してもらえよう、「なるほど」クラシック」と銘打ってシリーズ化。交響楽団やバレエの公演に合わせてプレ事業として開催するものは、公演で演奏される楽曲の特徴や裏話を事前に知る事ができます。レクチャーだけでなく十分興味深いですが、公演とセットで聴けばダブルで楽しめ、お得感満載です。また今年度は、楽器としてのピアノにスポットを当て、音色だけでなく演奏中の特殊な手の動き、構造など、視覚的にも楽しめる内容をコンサート形式で開催しました。

ほぼ毎回定員近くの来場があり、満足度も高いこのシリーズ。未体験の方はぜひ、いつもと違う音楽の魅力を味わいに来てください。

音楽をもっと身近に感じる
コンサートに行く楽しみが広がる
「レクチャー・シリーズ」

なるほど
クラシック
話し手に聞く

プラスαのエッセンスで広がる魅力

音楽は心そのままに楽しむもの。私はそう思っています。でも、作曲家や楽曲の歴史・背景をほんの少し知るだけで捉え方が変わる、面白くなるということはいえるでしょう。

私は、2021年度に開催された全5回のうち2回を担当しました。一つは、NHK交響楽団鳥取公演のプレ事業として、ロシアの作曲家・チャイコフスキーの名曲に触れました。公演でピアノ協奏曲第一番変ロ短調、交響曲第4番へ短調が演奏されるとのことでしたから、この2曲に夢中になった私の学生時代の思い出も盛り込みつつ、聴きどころや楽曲に秘めた作曲家の思いを解説しました。特に交響曲第4番は、パトロンのフォン・メック夫人に感謝の意を表して捧げた曲というエピソードを持っており、「この主題にはこういう意味があります」と、チャイコフスキー自身が譜面や夫人への手紙に書いているのです。それを知った上で公演を聴き、いつも以上に音楽を楽しんでくださったとしたらうれしい限りです。

初心者もコアなファンも きっと、もっと好きになる

レクチャー×生演奏の相乗効果

もう一つのレクチャーは、同じくロシアの作曲家で、没後50周年を迎えたストラヴィンスキー。バレエ団「バレエ・リュス」のために作られたバレエ音楽を中心に話しました。しかも、ヴァイオリンとピアノの生演奏付き。観客の皆さんが集中して聴いている様子を見て、改めて生演奏の良さを感じました。

さて、ストラヴィンスキーの回を終えてしばらくたったある日、すてきな出来事がありました。小学生の合唱指導へ行った際、一人のお子さんが「ストラヴィンスキーのお話を聞きました」と声をかけてくれたんです。子どもの聴講自体驚きでしたが、さらに「学校の課題でストラヴィンスキーを研究しました」と言うから、すごく面白いなど。レクチャーの効果を実感しました。

クラシック音楽は、意外と堅苦しくありません。私自身も学び直す機会になっており、これからも皆さんと一緒に音楽の世界を楽しんでいきたいと思っています。

新倉 健さん

作曲家、指揮者
鳥取大学名誉教授

武蔵野音楽大学大学院作曲専攻修了。オペラを中心に多数の作品を発表、国内外で高い評価を得ている。1981年、鳥取大学に着任。音楽分野の人材育成に努めつつオーケストラの指揮、地元合唱団の指導等にも尽力。2002年、鳥取県開催の国民文化祭に向けてオペラ「ポーロノの広場」を作曲。大好評を受け、今も全国各地で上演されている。

かげの立役者たち ～劇場裏のウラ～

財団技術管理部のスタッフが劇場の裏側をご紹介！
舞台や施設を見えないところで支えている、特殊な
構造や設備機器などをお見せします！



客席からみた梨花ホール音響反射板

心地よい響きの秘密

皆さんも音楽を聴くと、リズムに合わせて体が動いたり、心が揺さぶられて深く感動したりすることがあると思います。それは、音楽そのものが持っている力です。今回は、そんな素晴らしい音楽が持つ力を最大限引き出し、多くの感動を生むことにつながる梨花ホールの「音」の仕組みについてご紹介します。

まずは、舞台上に設置されている「音響反射板」。音を効率よく反射させることで豊かな響きを生み出す装置です。これにより、演奏者は自分の音が聴き取りやすくなり、演奏に集中することができます。

音響反射板は、3機の門型反射板で構成されており、高さは14m。普段は舞台後方に格納されています。設置する際は床板を起し、下に隠れている走行レール「電動レール走行式」を稼働。一直線に敷かれたレールの上をゆっくりと前進させます。設置位置は微調整が可能で、小編成・大編成・緞帳使用など、さまざまな演奏形態に対応することができます。総重量は、なんと約90トン。とても大掛かりな装置なので、操作する際は細心の注意を払っています。



3機の門型反射板



床下に隠れた走行レール

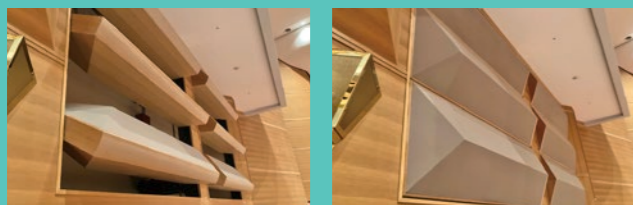
さらに響きを変化させるのは、客席左右の壁面に設置されている「残響可変装置」です。これを180度回転させることで、吸収面と反射面が切り替わる仕組みになっています。講演会では人の声が聞き取りやすいよう吸収面を使用し、クラシックコンサートでは反射面を出すなど、内容に応じて面を替え、より響きやすくしています。

今回ご紹介した舞台機構装置を使用することで、梨花ホール独特の豊かな響き(※)が生まれ、演奏者はより演奏しやすくなり、客席には心地よい響きを届けることができます。その存在はまさに、音楽を支える〔かげの立役者〕。演奏される楽曲はもちろんのこと、梨花ホールの「音の響き方」にも耳を澄ましてみてください。

※残響時間…1.8秒(幕使用時の残響時間…1.3秒)



残響可変装置(反射面)



反射面と吸収面の切り替え

FOCUS ON

県内の文化芸術活動団体・人を紹介します

倉吉ジュニアオーケストラ

呼吸を整え、弦にそっと弓を当てる。慎重に弓を上げ下げして“自分の音”を出していく。真っすぐに譜面に向かい、指導者の声に耳を傾けながら、腕を動かし続ける子どもたち。練習室は、弦楽器を奏でる喜びの音であふれている。



初級クラス、チェロとヴァイオリンの練習風景。みんなで奏でることで自分の音を確認しながら弓の動かし方を学べる。



弦楽フェスティバル
(2017年4月、倉吉未来中心小ホール)

お話を伺った人



事務局長・チェロ指導者
やま だ なお と
山田 直人 さん

自分で音をつくり出す喜び

青少年の健全育成と将来のオーケストラ愛好家を育てることを目的に1994年に発足。倉吉室内合奏団(山田衛生代表)メンバー指導のもと、初級クラスは小学校3年〜高校3年までの初心者を対象に月2回の練習を行っています。初級クラスを修了した後、希望者を上級クラスで受け入れ、これまでの団員数は延べ214人となりました。弦楽器は弦を弓で弾き、自分で音をつくり出す楽器です。正しい弓の扱い方や音程を整える左手の動かし方などの基本を学び、合奏曲を中心に練習しています。

ヴァイオリンを弾いている姿や音色に憧れていて、学校に団員募集のチラシが配られた時、「やってみよう」と思いました。指の位置が少し違うだけで音が変わってしまうし、音階の取り方も難しいですが、合奏でみんなと音がそろったときはとても楽しいです。弦楽器に触れるのは初めてでしたが、丁寧に指導していただいています。これから練習をがんばって、美しく正確な音が出せるようになりたいです。

まつばら はるか
松原 暖佳 さん

倉吉市立上灘小学校 5年
初級クラス2年目/ヴァイオリン

合奏の中で音がピタッと合うと、楽器同士が共鳴する瞬間を体験できます。隣の楽器の音も自分の楽器を響かせ、何層にも美しく重なり合っていく。演奏者ならではの喜びが味わえます。春には弦楽フェスティバル、8・9月には定期演奏会を開催。倉吉ジュニアオーケストラを経て、倉吉室内合奏団のメンバーになったり、プロ奏者として活躍している人もいます。これからも倉吉室内合奏団と連携しながら、広く弦楽器に触れてもらう機会をつくっていききたいと思います。



2022年春から、とりぎん文化会館、倉吉未来中心の施設予約・利用方法が変更となります。

24時間 WEB予約受付開始

ご自宅のパソコン・スマホからいつでも利用申込が可能に！申込書の提出が不要となり、一度、利用者登録をさせていただき、次回以降の練習室や会議室の申込が簡単になります。

とっとり施設予約サービス

※利用申込には利用者登録が必要です。
 ※ホール・イベントホール(展示室)・アトリウム
 フリースペースはWEB予約の対象外です。
 ※WEBでは仮予約はできません。仮予約が
 必要なお利用については、窓口・電話にて
 ご予約ください。
 ※仮予約期間は10日間です。

【窓口・電話受付】9:00～18:00



キャッシュレス決済にも対応

WEB予約では、申込だけでなく、オンライン決済にも対応し、窓口でもクレジットカードがご利用いただけるようになります。

利用可能なクレジットカードの種類



※支払回数は一括払いのみです。
 ※クレジットカード会社によっては
 ご利用いただけないものもあります。



全館「4つの時間帯による区分貸出し」に

全ての貸出施設を「午前」「午後」「夜間」「全日」の区分貸出しにすることで、利用料金がシンプルに。また、利用の入替時には、清掃・消毒・換気作業を徹底して行い、より安心してご利用いただけます。



詳細や最新情報はとりぎん文化会館・倉吉未来中心のホームページをご覧ください。

「文化芸術」による地域の発展に向けて共に歩む“パートナー”のみなさま

パートナー企業制度

文化芸術を通じたパートナーシップ
 ～アートが人・地域をつなぐ～

スペシャルパートナー企業

- 株式会社さんびる
- 株式会社新日本海新聞新聞社
- 株式会社中海テレビ放送
- BSS山陰放送
- 堀田石油株式会社

パートナー企業

- 株式会社ウエスコ鳥取支社
- 株式会社懸樋工務店
- 有限会社キーワード
- 株式会社衣笠商会
- 株式会社サテライトコミュニケーションズネットワーク
- 山陰エレベータ株式会社
- 株式会社山陰合同銀行
- 山陰東芝エレベータ株式会社
- 三光ホールディングス株式会社
- 鳥取ガス株式会社
- 株式会社鳥取銀行
- 鳥取信用金庫
- ヤマタホールディングス株式会社

お問い合わせ 公益財団法人 鳥取県文化振興財団 総務課 パートナー企業制度担当 TEL.0857-21-8700



敬称略・五十音順/令和4年2月1日現在

小林愛実ピアノ・リサイタル



©Makoto Nakagawa

「第18回シヨパン国際ピアノ・コンクール」(2021年10月)で第4位に入賞し、話題となった小林愛実さんのリサイタルが2022年9月19日(月・祝)、とりぎん文化会館の梨花ホールで開催される。

小林さんは3歳からピアノをはじめ、7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューと、幼少期から国内外で活躍。その後も、スピヴァコフ指揮モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラ、ジャッド指揮ブラジル響、ポスカ指揮チューリヒ・トーンハレ管など、国内外における多数のオーケストラと共演し、世界中を魅了し続けている。

国際的にも高い評価を得た美しい旋律は、夢のようなひとときを演出する。

詳細は決定次第
 (公財)鳥取県文化振興財団の
 ホームページに掲載いたします。



メンバーに聞きました!



成実さん

印象に残った出来事は?

十七絃を弾けるようになったことがうれしかったです。箏より大きくて、弦も多いので難しいです。しかし、低音でも迫力があり、カッコいい楽器です。



美月さん

目標を教えてください。また、そのために取り組んでいることはありますか?

てまり会の先輩みたいに弾けるようになることです。そのために学校に行く前に練習時間をつくっています。



伊織さん

魅力はどんなところ?

太い音や細かい音があって、いい演奏ができる場所。



成実さん



美月さん



伊織さん

読者に伝えたいことは?

コロナ禍で演奏会は少ないですが、機会があれば箏の音を聴きに来てください。



日常あまり目に触れることがなくなった、日本の伝統楽器(箏・三味線など)を演奏する団体です。楽器の持つ音色とその楽器で奏でる古典音楽の素晴らしさを1人でも多くの方に伝えられたらと思い、活動しています。古典音楽を次世代に伝承するため、聴いてもらえる機会を増やし、すそ野を広げていくことから始めたいと思っています。

【代表者】菊弘瀬 恭子さん
 【設立】1992年3月 【メンバー数】25人
 【話を聞いたメンバー】
 徳重 成実(13才) / 活動歴3年10か月
 白間 美月(12才) / 活動歴2年5か月
 山本 伊織(9才) / 活動歴1年



青少年
 古典・郷土芸能
 グループ紹介
 vol.8

【箏・てまり会】
 日本の心伝えたい
 箏の音に込められた

イベント
主催

プロデュース公演 <演劇>
U-18シアタープロジェクト Act2
「捨てきれないもの」

書いた! 演じた! みてくれ今の私たち!

日時 | 8月6日(土) [昼] 開演 14:00
[夜] 開演 18:00
8月7日(日) [昼] 開演 14:00

会場 | とりぎん文化会館 小ホール

チケット | 全席指定(税込)※未就学児入場不可
一般 2,500円 U18 1,000円

一般発売 | 6月4日(土)

<監修・演出>宮田慶子
<客演>岡田達也(演劇集団キャラメルボックス)



詳細情報



お問合せ | とりぎん文化会館 TEL.0857-21-8700

イベント
主催

オーケストラ・アンサンブル金沢
境港公演

©Makoto Kamiya

新しいホールで最高の演奏を!!

日時 | 9月25日(日)
会場 | 境港市市民交流センター ホール

チケット | 全席指定(税込)※未就学児入場不可
S席・一般 6,500円 A席・一般 4,500円
A席・U18 3,000円

<出演>演奏:オーケストラ・アンサンブル金沢
指揮:広上淳一 ソリスト:神尾真由子
※詳細は決定次第(公財)鳥取県文化振興財団のホームページに掲載



財団HP



お問合せ | アルテプラザ TEL.0859-38-5127

イベント
主催

梨花新能

かがり火の炎に照らし出される幽玄の世界

日時 | 10月2日(日)
会場 | とりぎん文化会館 中庭 特設能舞台

<出演>
シテ方宝生流 山内崇生ほか

※詳細は決定次第(公財)鳥取県文化振興財団のホームページに掲載



財団HP



お問合せ | とりぎん文化会館 TEL.0857-21-8700

イベント
主催

ストラディヴァリウス・コンサート2022

世界最高峰「ストラディヴァリウス」が
奏でる至極のハーモニー

日時 | 10月10日(月・祝)
会場 | 倉吉未来中心 大ホール

主催 | (公財)日本音楽財団
助成 | (公財)日本財団

<出演>ゴルトムント・カルテット
<使用楽器>ストラディヴァリウス「パガニーニ・
カルテット」
※詳細は決定次第(公財)鳥取県文化振興財団のホームページに掲載



財団HP



お問合せ | 倉吉未来中心 TEL.0858-23-5391

イベント
主催

プロデュース公演 <音楽>
とっとりチェンバーオーケストラ
弦楽アンサンブルコンサート

鳥取にゆかりあるプロ奏者による
室内合奏団TCOの定期コンサート

日時 | 11月3日(木・祝) 開演 14:00
会場 | 倉吉未来中心 大ホール

チケット | 全席指定(税込)※未就学児入場不可
一般 3,000円 U18 1,000円

一般発売 | 7月20日(水) 予定

<演奏予定曲>
モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
シューベルト「死と乙女」ほか



公演情報



お問合せ | とりぎん文化会館 TEL.0857-21-8700

イベント
主催

ウィーン・リング・アンサンブル
ニューイヤー・コンサート2023

音楽の都・ウィーンから届く“本場”の音色

日時 | 2023年1月9日(月・祝) 開演 14:00
会場 | 倉吉未来中心 大ホール

<出演予定>
ライナー・キュッヒル(ヴァイオリン) / ダニエル・フロシャウアー(ヴァイオリン) / ハインリヒ・コル(ヴィオラ) / シュテファン・ガルトマイヤー(チェロ) / ミヒャエル・ブラデラー(コントラバス) / カール=ハインツ・シュツツ(フルート) / ダニエル・オッテンザマー(クラリネット) / アレックス・ラドシュエッター(クラリネット) / ロナルド・ヤネシツツ(ホルン)

※詳細は決定次第(公財)鳥取県文化振興財団のホームページに掲載



©大杉隼平

※写真のメンバーと出演メンバーが一部異なります。

財団HP



お問合せ | 倉吉未来中心 TEL.0858-23-5391

※チケットはとりぎん文化会館、倉吉未来中心、アルテプラザ、WEBチケット等でご購入いただけます。
※車椅子席・介添席・託児をご希望の方は、各イベントのお問合せ先へご連絡ください。
※アンダーチケット(U22、U18等)で入場の際は、公演当日身分証明書等の提示が必要です。
※イベント内容は変更になる場合があります。

掲載のイベントは新型コロナウイルス感染症の影響により、中止・延期になる場合がございます。最新情報はお問合せ先へご連絡ください。



最新情報は、鳥取県文化振興財団 公式Facebookページでチェック!



鳥取県文化振興財団 FB

とりぎん文化会館

(県民文化会館/財団事務局)

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5
TEL.0857-21-8700 FAX.0857-21-8705

✉ bunka@torikenmin.jp



【休館日】

年末年始および毎月第2・4・5月曜日
(祝日の場合は、その翌平日)

http://www.torikenmin.jp/kenbun/



倉吉未来中心

〒682-0816 倉吉市駄経寺町212-5
TEL.0858-23-5391 FAX.0858-47-0255

✉ mirai@miraichushin.jp



【休館日】

年末年始および毎月第1・3・5月曜日
(祝日の場合は、その翌平日)

http://www.miraichushin.jp/



アルテプラザ

(財団西部事務所)

〒683-0043 米子市末広町311
米子駅前ショッピングセンター 4階(イオン米子駅前店4階)

TEL.0859-38-5127 FAX.0859-38-5128

✉ seibu@torikenmin.jp

【休業日】

年末年始および毎週日曜日・月曜日

http://www.torikenmin.jp/artepiazza/

